

鳥獣センター通信

2023
1
Vol.42

発行元
鳥獣被害対策支援センター
電話 0985-441816

Topics. 『鳥獣被害対策技術向上研修』を実施しました。



電気柵の設置の様子



機器に関する取扱説明の様子



鳥獣被害対策資材メーカーのタイガー株式会社九州支店の担当者を講師に、電気柵の基礎知識や設置上の注意点、安全な使用方法などに関する講義のほか、場内ほ場において電気柵の設置実習を行いました。

防護柵研修 (6月)

Topics

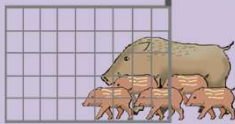
鳥獣被害対策支援センターでは、鳥獣被害対策マイスターを対象として、被害防止対策の適切な知識の普及や、現地における技術定着等を目的に研修を実施しています。今回は、6月から12月にかけて実施した3つの研修について、ご紹介します。



実際にわなをかける様子



座学研修の様子



わなによる捕獲について「初級編」と「応用編」に分けて実施しました。受講された農業者からは、「初級編で学んだことを活かしてわなをかけたら、畑を荒らしていたイノシシを捕獲できた!」と嬉しい報告がありました。

捕獲対策研修 (11月)



中小型獣用の防護柵設置の様子



座学研修の様子

タヌキやアナグマなどの中小型獣対策の研修を実施しました。まずは、これらの生態や被害防止対策について学び、その後、中小型獣対策に特化した防護柵の設置実習を行いました。研修場所である総合農業試験場内でも、タヌキによる被害が発生しているため、正式な手続きを取った上で捕獲を実施しています。その様子についても、動画を用いて説明を行いました。

中小型獣対策研修 (12月)

担当者の一言

全国各地で猛威を振るっている鳥インフルエンザ。

本県でも、1月12日現在、養鶏場において3件発生しており、関係者はその対応に追われています。そのような中、わたくし室屋は、休日を利用して死亡野鳥がないか池をパトロールしながら、狩猟に励んでいます。



捕まえた鳥は、美味しくいただきます。

そんな私が所属している猟友会支部は、平均年齢70代後半と高齢化が進んでおり、有害鳥獣捕獲の後継者不足が深刻です。狩猟や有害捕獲に興味がある方は、お声がけください。

被害対策に関する問合せ

西臼杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合 等

来年度も、様々な研修を実施する予定です。是非ご参加ください。また、『このような研修をしてほしい。』等の要望があれば、鳥獣センターまでご相談ください。

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

東臼杵 南部 地域

○令和4年度鳥獣被害対策リーダー研修会の開催

日向市(11/28)、門川町(11/30)、東臼杵西部地区(諸塚村、椎葉村、美郷町、諸塚村、11/14)で、今年度、国の鳥獣被害防止総合対策交付金事業を活用して、新たにワイヤーメッシュ柵設置を行う集落代表者を対象に、鳥獣被害対策リーダー研修会が開催されました。

市町村からは、柵設置の工期や、設置後に提出が必要な書類等の注意点が説明されました。

次に、鳥獣被害対策支援センターから「鳥獣被害対策の基本とワイヤーメッシュ柵の設置・維持管理のポイント」と題して、効果的な柵の設置方法や設置後の雑草管理等の重要性などを説明いただき、農業改良普及センターからは、「みんなで守る集落づくり」と題して、鳥獣被害対策に成功した県外の優良事例をDVDで紹介し、集落のみんなが協力して対策を実施することで、効果が上がることを理解していただきました。

その後資材メーカーの担当者を交えて、現地での実技研修として、実際に柵の設置を行いました。

今後この研修会で学んだ手法を活かしながら、効果的な鳥獣被害対策が実施されることが期待されます。



鳥獣被害対策室内研修



ワイヤーメッシュ柵設置現地研修

北諸県地域

北諸県地域では、今年に入つてイノシシの目撃や被害が増えた地域があり、農業経営指導士から相談がありました。そこで、地域住民と一緒に対策に取り組みましたので、ご紹介します。

○対策の検討

まず、地域住民と一緒に現地を回り、イノシシの足跡や掘り起こしの跡を確認し、どこからイノシシがやってくるのか、潜在場所はどこか、対策は何かできるかを検討しました。

地域では高齢化が進み、耕作放棄地も多いため、全体にワイヤーメッシュ柵を設置するのは管理の面で厳しく、ワナによる捕獲を中心に行うことで合意しました。

○対策の実施

被害の出ている農地では電気柵等で対策を取りつつ、イノシシの侵入経路を把握するためカメラを設置しました。また、目撃情報やイノシシの掘り起こし跡から動きや頭数がある程度把握することができました。

その後、集まった情報を基に猟友会に要請し、イノシシの通り道に箱ワナを設置しました。箱ワナ設置に伴い、地域特命チームからはサツマイモを利用した誘引方法について指導しました。

○箱ワナ設置後の様子

箱ワナ周辺に誘引用のサツマイモを置いたところ、カメラで親1頭、子2頭が確認できました。現在、親が箱ワナに対して警戒心を持っていないことから、捕獲には至っていませんが、今後も捕獲に向けた取組を継続します。

○地域としての取組
対策を開始した当初、農業経営指導士を対象に対策支援を行ってききましたが、被害状況を地域住民と確認していく中で、住民の対策意識も向上しています。電気柵の常時通電や、ロケット花火による追い払いの実施等、住民主体の対策が進んでいます。地域では、複合的な対策により、イノシシの目撃も少なくなってきました。

今後も、住民主体のイノシシが嫌がる地域づくりの取組に対して、継続して支援を行う予定です。



警戒しながら箱ワナ周辺を歩くイノシシ